NICU留学記

2009年３月より，神奈川県立こども医療センター新生児科では全国の若手医師を対象とした「新生児医療のための短期有給研修医制度」をスタートさせました．７～９月号では，短期研修医の同僚として１年間にわたる長期研修生活を送った下風先生の留学記を，番外編として紹介します．

留学生：下風朋章
山形大学医学部附属病院小児科
→神奈川県立こども医療センター

研修期間：2009年４月１日～2010年３月31日

第１回：そうだ，神奈川こどもへ行こう！

私は小児科８年目，２年の新生児科経験を終了して３年目に，神奈川県立こども医療センターNICUへ国内留学することになりました．専門分野を選択するのに迷いがあり，やや遅めの新生児科医としてのスタートとなったため，卒後年数に比べて，自分の新生児科医としてのレベルの低さに少々焦っていました．この焦燥感から漠然と，他施設での研修を希望しており，どこで研修を，ということになりました．

まず，神奈川こどもを取材したテレビ番組のDVDが研修のイメージを持つのに有用でした．そして新生児医療フォーラムのメーリングリストでの福島県立医科大学の金井祐二先生の研修日記に，研修の様子がいきいきと描かれていました．私の医局のボスの後押しもあり，「そうだ，神奈川こどもへ行こう！」と決意しました．

早速，見学にお邪魔しました（早朝にもかかわらず，副院長の猪谷泰史先生が直々に出迎えてくださり，恐縮しました）．レジデントの先生方は，てきぱきと仕事をされ，「鍛えられているなあ」と感じ，いきいきしている印象でした．見学を終え，採用の通知を頂いたときは非常にうれしく思いましたが，研修開始の近づいた雪解けのころには，憂うつさや不安も感じるようになり，大げさですが，志願して戦地に赴くような気持ちでした．

４月に研修が始まり，ショックを受けました．同僚のレジデントの皆は，自分の新生児学のスタイルや考え方を相応に身につけ，ブラッシュアップを目的としていました．レベルの違いにがくぜんとし，「場違いのところに来てしまったのか」と不安に思いましたが，押し寄せる毎日の入院と重症度の高さに圧倒され，幸いにも余計なことを考える余裕がなかったのが，かえってよかったのかもしれません．何よりも医局のボスから，「つらかったらいつでも戻っておいで」と連絡をもらい，随分と気分が楽になりました．できないからこその研修だと割りきった春でした．

●留学記録　写真は「横浜」のイメージとは違うこども医療センターの周囲です．公舎の脇から見た風景です．